

平成30年度第1回パートナーシップのまちづくり推進会議次第

平成30年7月2日（月）

午後7時から

ひと・まちプラザ 3階 集会室

1 開会

2 市民憲章唱和

3 会長あいさつ

4 会議事項

(1) 準備委員会の検討経過報告

【別紙1】

【別紙2】

(2) 今年度の取組方針について

(3) 今年度、大きな共通課題の中で特に力を入れる項目について

【別紙3】

(4) 市民活動センターの事例紹介

(5) その他

5 閉会

平成30年度パートナーシップのまちづくり推進会議 準備委員会検討経過報告

1 準備会メンバー（12名）

委員 河西副会長、牛山副会長、長田副会長、依田委員、小池委員、矢崎委員、伊藤委員
事務局 田中課長、牛山センター長、国枝係長、野明係長、五味主任

2 検討日および検討内容

- 1回目 平成30年5月17日（木）
昨年度のふりかえり、今後の推進会議の進め方及び検討内容について意見出し
- 2回目 平成30年6月6日（水）
今後の推進会議の開催内容及び進め方について

3 今後のパートナーシップのまちづくり推進会議の進め方について

(1) 平成30年度推進会議の狙い、目標

大きく分けて次の3点について取り組んでいけばいいのではないかと。

①大きな共通課題の解決

昨年の推進会議で出された「パートナーシップのまちづくりを進める上で、地区コミュニティ運営協議会を進める上で大切にしたいこと」の意見の集約の中で共通する部分の課題解決に向けて取り組む

②若者の参画に繋がる取組

推進会議とは別途、若者がまちづくりに参画できる機会を設けていくこと、そこに市職員も関わりを持っていくことを提案

③市職員のスキルアップ

既に市では取り組んでいるが、推進会議でも良くなったかどうかの評価を行っていく。教科書的な研修もベースには必要かもしれないが、現場・実践の中でのスキルアップや、今うまくいっていないことへの対処につながるスキルアップが必要

(2) 平成30年度推進会議のスケジュール（何回、どんな形で）

全体で4回の会議を予定（推進会議でPDCAを回す）

第1回会議	全体で会議を開催し、今後の取り組み方について検討を行う ・今年度の取組方針の確認 ・今年、特に力を入れる項目の確認 ・若者のまちづくりへの参画 ・ゆいわーく茅野の事例紹介を交えて
第2回会議	分野別と運協の部会に分かれて開催 上記①について具体的な取り組み方について意見出しを行う
各分野別団体及び地区運協で、個別に課題への取組方を検討し、実践に取り組む	
第3回会議	中間報告の機会 それぞれどのような取組を行っているのか、行ってみたいのか、意見交換を行う
第4回会議	情報交換、振り返り等の機会 個別に取り組んでみてのふりかえりを行い、良かった点の確認と改善点について検討し、次年度につなげる

4 推進大会について

- ・推進大会は今までのようにとりあえず集まるというような形なら開かない方がよい
- ・発表の場や啓発はビーナチャンネル等別の手法を活用していく方がよい

平成30年度 パートナーシップのまちづくり推進会議の方向性（イメージ図） 【準備委員会案】

○準備委員会における論点（ポイント） 「昨年出された大切にしたいことの見出しを踏まえて」

①大きな共通課題の解決

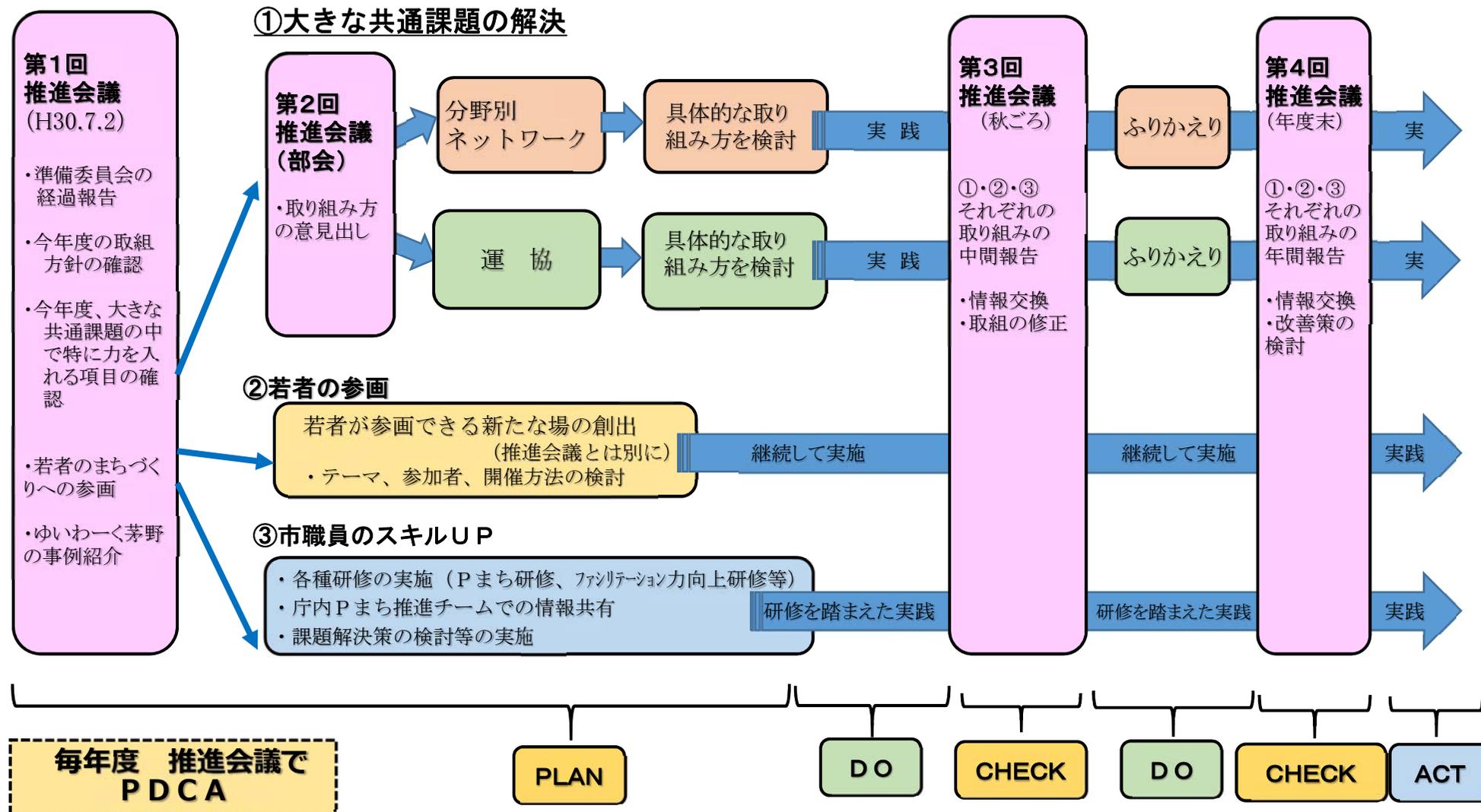
- ・コミュニケーション
- ・対話
- ・情報共有

②若者の参画

- ・まちづくりの未来
- ・若者だけの議論

③市職員のスキルUP

- ・Pまち研修
- ・ファシリテーション力向上研修 等



パートナーシップのまちづくり・コミュニティ運営協議会を進める上で大切なこと 意見集約

グループ	分野別			コミュニティ運営						
	1 グループ	2 グループ	3 グループ	4 グループ	5 グループ	6 グループ				
①まちのランドデザインを描く	みんなで明るい未来をえがく	・明るい未来をえがく								
②目標・課題を共有する		・合意形成のプロセス(市民)、合意形成の結果(行政) ・目指すビジョンを確立する ・ビジョンを共有する ・テーマにより行政or市民が主体か明確にする ・目的を明確にする	目標・課題を共有する	・目標、課題などを共有する ・お互いのめざす方向が共有され、行動にうつす ・ふり返りを大切に ・問題を前向きに検討する	目的を明確にする	<地区> <行政> 必要性 具体性 …… 庁内の支援チーム(体制)				
③PDCAサイクルの確立		・PDCAのサイクルで検証し見直しする ・協働の評価、フィードバックの確立 ・実践していくことが大切	PDCAサイクルをまわしていく							
④情報を共有する	情報を理解し共有する	・情報の共有 ・情報公開 ・市民への丁寧な政策情報の説明、提供 ・各種等理解しやすい資料提供	情報を共有する	・情報共有⇒プロセスと結果の溝を埋める ・情報の共有 ・政策情報の公開 ・パートナーシップの進め方が変わったときは明確に示す ・変更するときは事前に知らせしてほしい ・マスコミに出す前に事前に話を聞いてほしい	情報を共有する	・情報交換し、理解し合うこと ・情報を共有するようにする				
							地域の情報を共有する	・情報共有の場所づくり ・構成する部分から課題や問題を出しやすい環境を作ること ・地域課題の収集、共有 ・活動より共有の場(でよい?)を認識	情報を共有する	・情報(課題)の共有 ・人との対話を大切に(コミュニケーション) ・地区課題の共有化 ・団体間での情報共有 ・人の存在を大切に ・課題の共有から解決までの流れ ・役員交代時の認識共有 ・広域的な支え合いの気持ちを持つ ・運協と区長会の連携 ・情報共有 ・連携
							地区に運協活動を知らせてもらう	・部会との連携の実態を広く地区の人達に知らせる(広報) ・コミュニティ運営協議会の存在を覚えてもらう(ほとんどの区民が知らない) ・運協のあり方の説明	活動をPRする	・運協のPR
市民への情報発信(運協を)	・運協の活動を市が広報									
⑤パートナーシップのまちづくりを理解する	パートナーシップのまちづくりを理解する	・パートナーシップとは何かを具体的な意味で共有すること	パートナーシップと協働の違いを明確にする	・パートナーシップと協働の違いを明確にする ・常にパートナーシップのまちづくりをしていることを発信する ・市民への周知を徹底	基本理念を確認する	・「市民主導、行政支援」の捉え方の確認 ・条例の見直しをする				
⑥丁寧に合意形成を図る	合意を形成する	・合意形成(×2) ・出来ること、出来ないことを明確にする ・行政支援の方法は、市民活動に応じて様々なパターンがあることを共に認識すること	パートナーシップと協働の違いを明確にする	・市民の中にもズレがある。これはどうすれば良いのか	ていねいな合意形成	・合意形成を大切に(時間をかける) ・ていねいに時間をかける ・プロセスと大事にする ・合意形成のプロセスを大切にし、信頼関係を築く ・共通の利害、関心を持つ				
⑦対等な立場で相手を尊重する	互いの立場を尊重する	・互いに違うからパートナーとなり協働があることを共に認識すること ・思いやりの気持ち ・勇気を持つ	対等な関係を構築する	・行政職員もまた市民⇒生活者の視点 ・市民と行政が対等に話し合える環境 ・信頼関係(情熱、誠実、利他心、根拠強さ) ・お互いを認め合いながら形にしていける、話し合いが大切 ・対等な協働の鍵は夢と共感	パートナーを尊重する	・相手の状況を考えて対話する ・お互いの意見を尊重し、共通の認識にする努力をする ・違いを理解する				
	市民の多様性の理解	・「市民」の多様性の理解、許容				・それぞれの立場の方のご意見を大切に ・地区内のあらゆる分野の団体が参加、認識 ・対等な立場で対話する				
⑧コミュニケーションを大切に	市民と行政が十分なコミュニケーションを図る	・コミュニケーションをとる ・コミュニケーション能力 ・市民と職員の十分な議論	コミュニケーションづくりの強化	・会議外での意見交換 ・多くの年代、市民の意見を聞く	対話を大切にする	・出た意見を一緒に考える(自分ならどうする?) ・キャッチボール ・対等の立場で話し合いをする ・お互い率直に意見を出し合う				
⑨各種団体・組織・機関との連携と関係性の理解				分野別と地域Cの連携	運協と区	・区と運協との役割の分担 ・区、自治会の活動につなげる				
						・CC職員のやる気 ・コミュニティとの連携 ・地区役員と職員が常に連携を持つ ・SCとの連携 ・運協と区との接着、コーディネート⇒CC職員 ・職員の役割を地区民が理解する				
⑩スタンスを共有する						運協活動の充実が各部会の活動の充実				
⑪市民参加の意識を高める	市民参加の意識を高める	・市政に興味を持つ ・市民は、自ら行政の業務を成し遂げようとする意欲を持つこと				・区、自治会の活動の充実が運協の充実につながる ・運協は事業をするのでなく協力する場 ・運協は地区の大黒柱				
⑫モチベーションを高める	市民の意思を尊重する	・行政は、市民の意見を聞く姿勢 ・市民のやる気を引き出す職員の対応 ・行政の判断で実施する業務は市民に説明することができること ・会議において行政側が一方的にならないように配慮すること ・住民の声をよく聞いてほしい	モチベーションを上げる活動が大切	・楽しい ・達成感	支える、支えられる	・苦労を上まわる達成感 ・楽しいこと、張り合いができること ・運協からの押し付けはしない ・無理せず行う				
⑬住民の自立と主体的な活動の推進	市民が責任を持ち自立する	・責任を持つ ・自立			組織の活性化を図る					
⑭人材を育成する			コーディネーターを育成する	・情報(人材バンク) ・つなぐ人の役割が大切 ・コーディネーター		・行政区からの情報提供 ・CC職員が地域とのつなぎ役員になる				
						・リーダーの育成 ・人材の発掘 ・コミュニケーション能力の向上 ・今後、AIの時代となるが、人との関わりはAIにはない				
						・役員任期の複数年(×2) ・結論を焦らない				
⑮若者の参加を進める	若者の参加	・若者の参加方法	世代交代を進める	・若手の参画 ・新しい人材の掘り起こし		・各地域での主となる人材の発掘が重要 ・リーダー ・当事者意識を持ってできる工夫 ・中期的な視野での活動には複数年の任期が必要 ・役員は複数年				
⑯職員のスキルアップ	職員の事務引継ぎが大切	・職員は職場が移動するとき、引継ぎをきちんとしてほしい				・CC職員の力量 ・役員と仲良くしていく ・顔合わせの機会を複数持つ				
⑰パートナーシップの負担を軽減する			パートナーシップの負担を減らすことを考える	・パートナーシップの負担を減らすことを考える ・他の活動との連携が大切						
⑱スピード感をもって行動する	これらのことをスピード感をもって進める	・スピード								